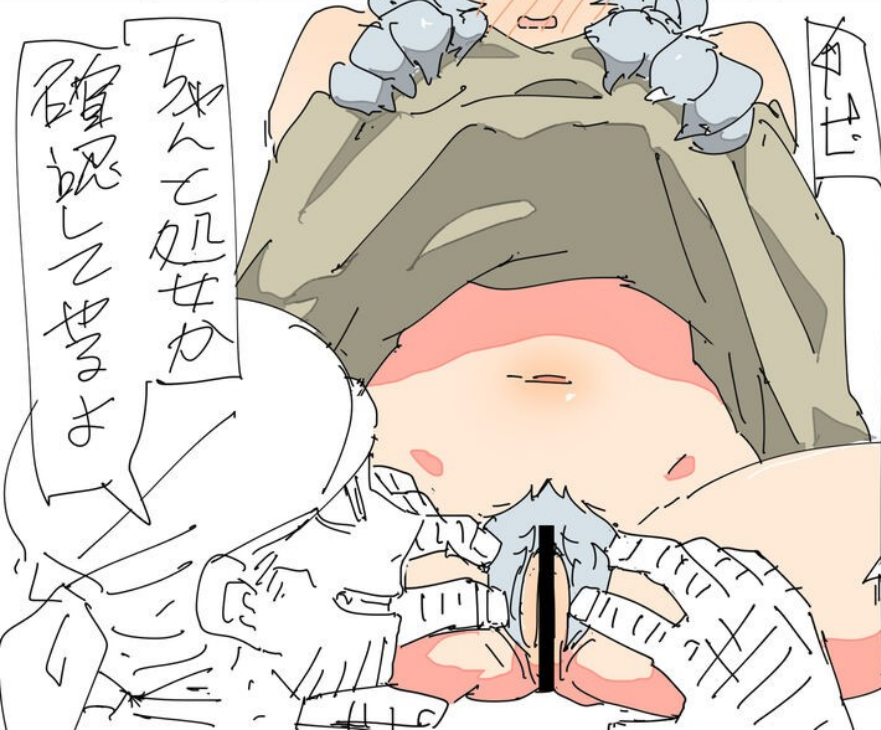


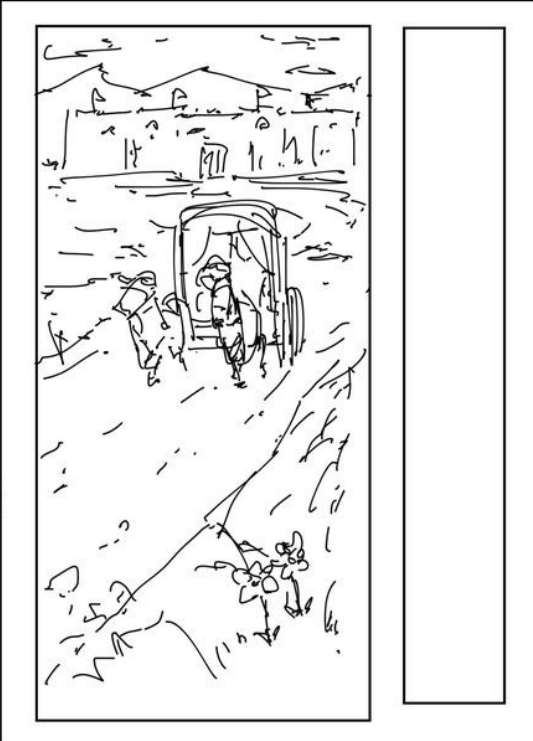


どうぞすかな

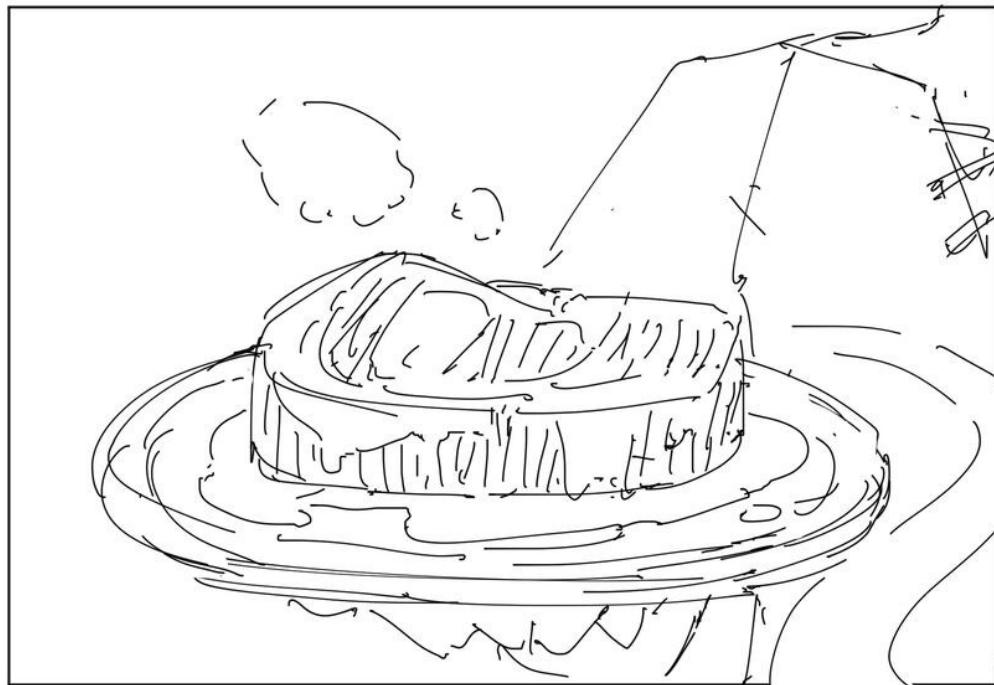




『従属のP兄い』  
名札に刻まれた主人の  
命令に従うP兄い。



知女で言葉も  
知らないとなると  
大嫌いですよ

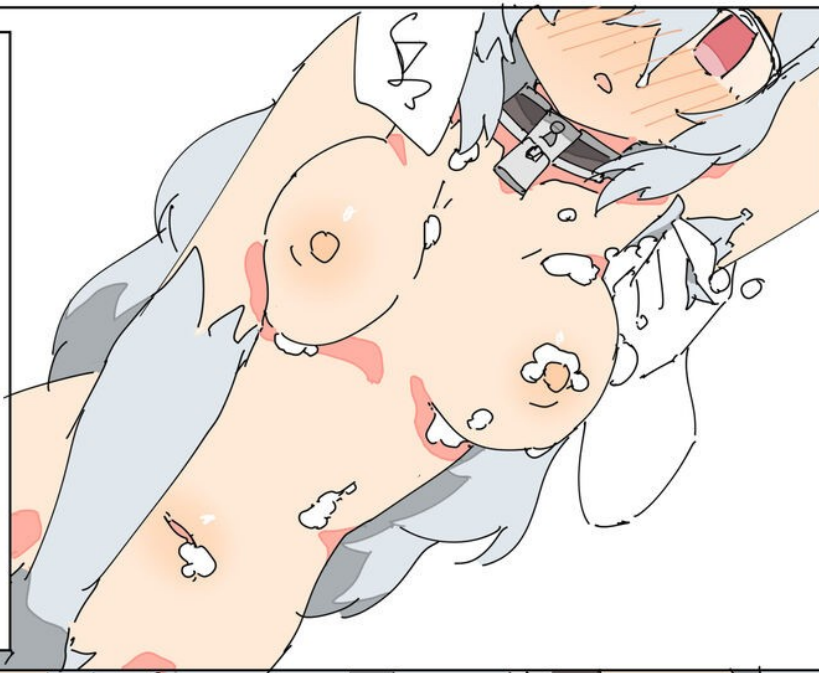


首輪のカギで風呂場まで  
連れてこられたが



言葉が通じなくとも  
命を大事にするとはな

意識はあるのか  
何かを訴えている



・・・しかし  
顔立ちの割に  
いい身体してるな  
ゴワッ

この身体が俺の  
所有物なんだから





胸元を露出せられて  
しるな...



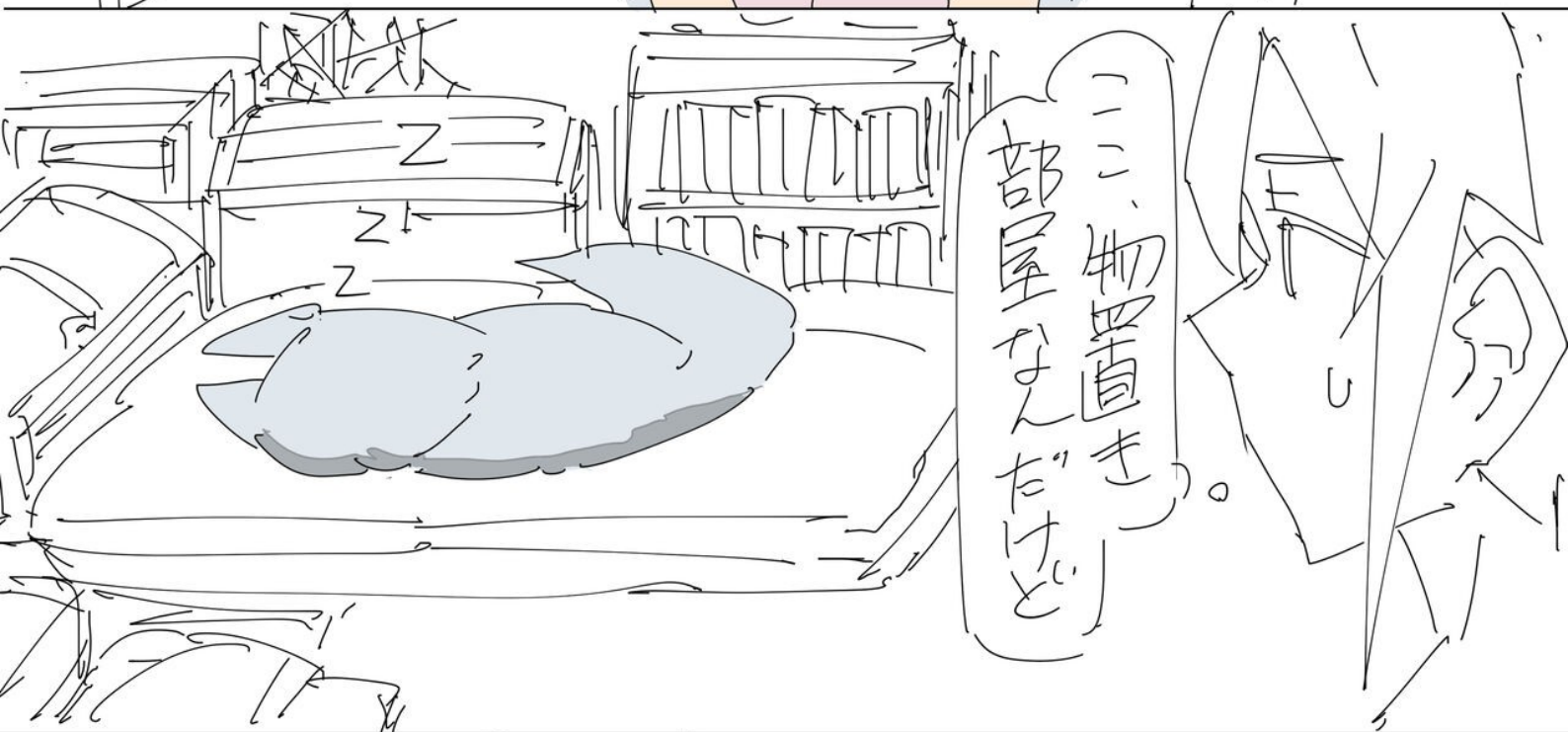
あの商人ー  
「さういう」衣装を  
寄越しやがったか。  
本人は、うれしそうだが





クワン  
クワン

おい、  
どこ行くんだ?

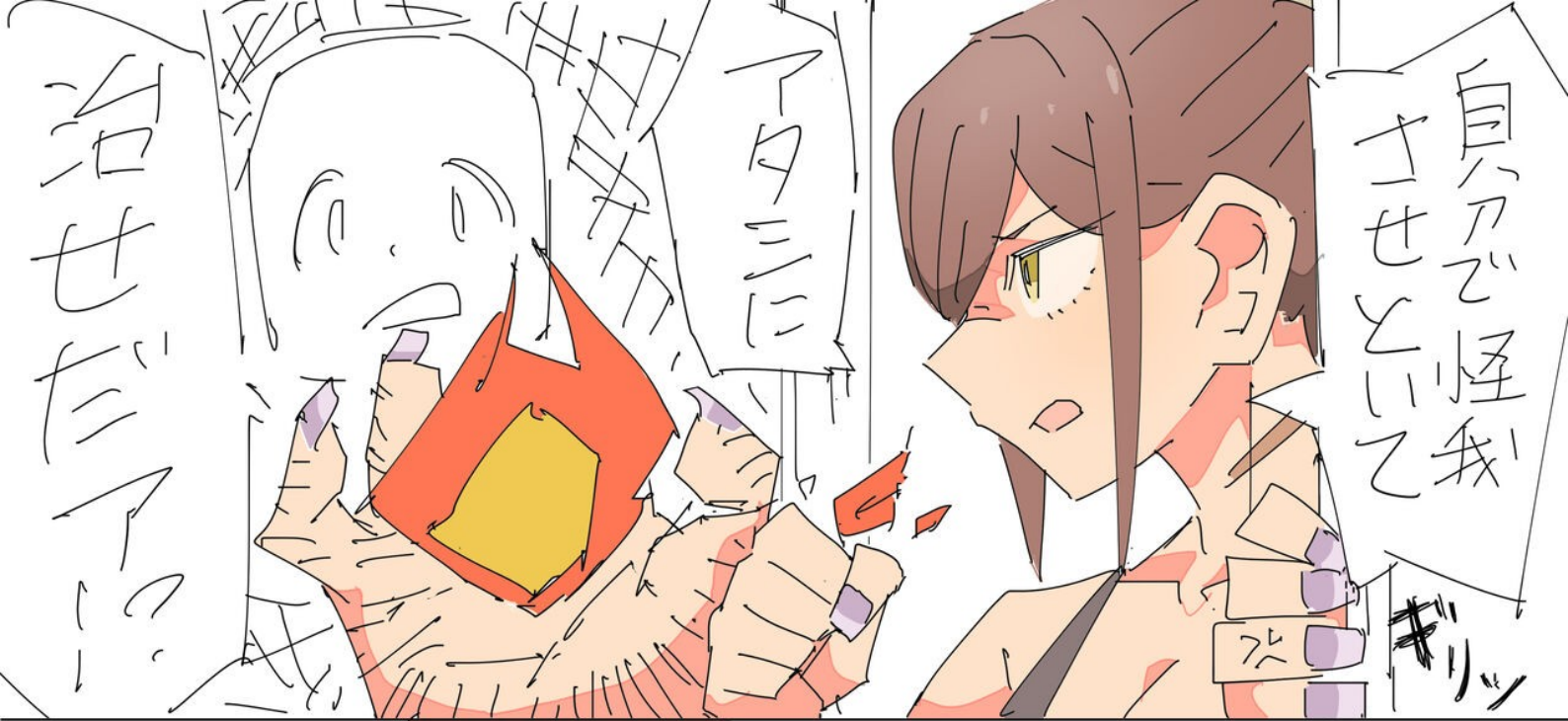


「ここ、物置き」  
部屋なんだけど



明日は魔獣医に  
連れていか





魔獣医イリシヤ

話は聞かせて  
もらってたよ

胸揉  
もうとして

へたれたらしいな



ごも 踏みとどまっ  
くれと良かったよ

さっきのワズミみたいに  
乱暴な奴が多すぎ

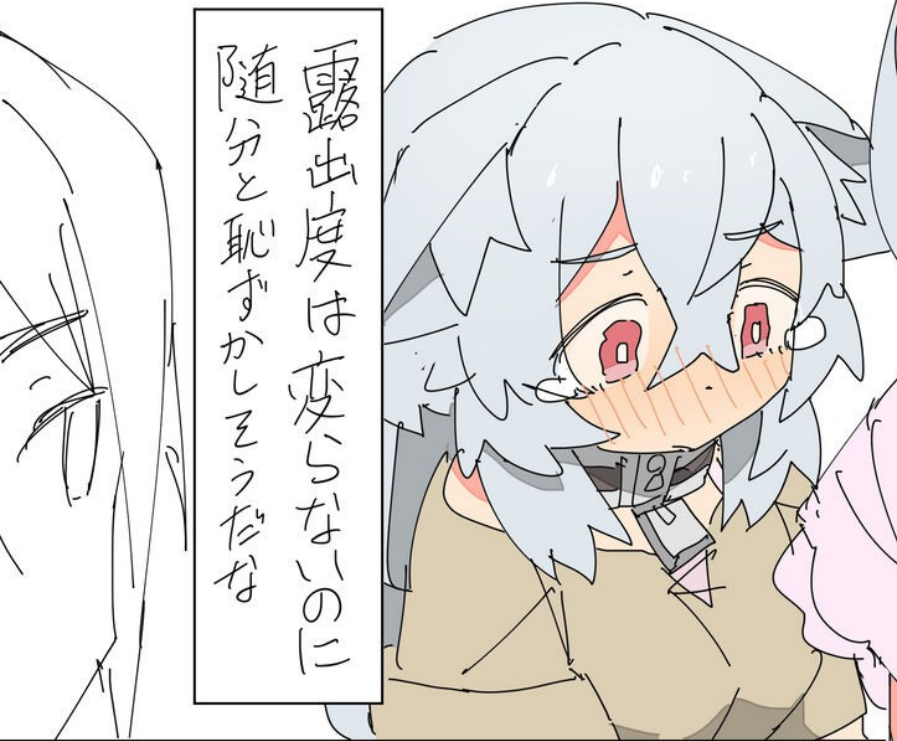


あの娘  
狼人族 旨い飯  
喜んでたぞ





腋  
下の毛は  
衛生に悪いからな



露出度は変わらないのに  
随分と恥ずかしそうだな

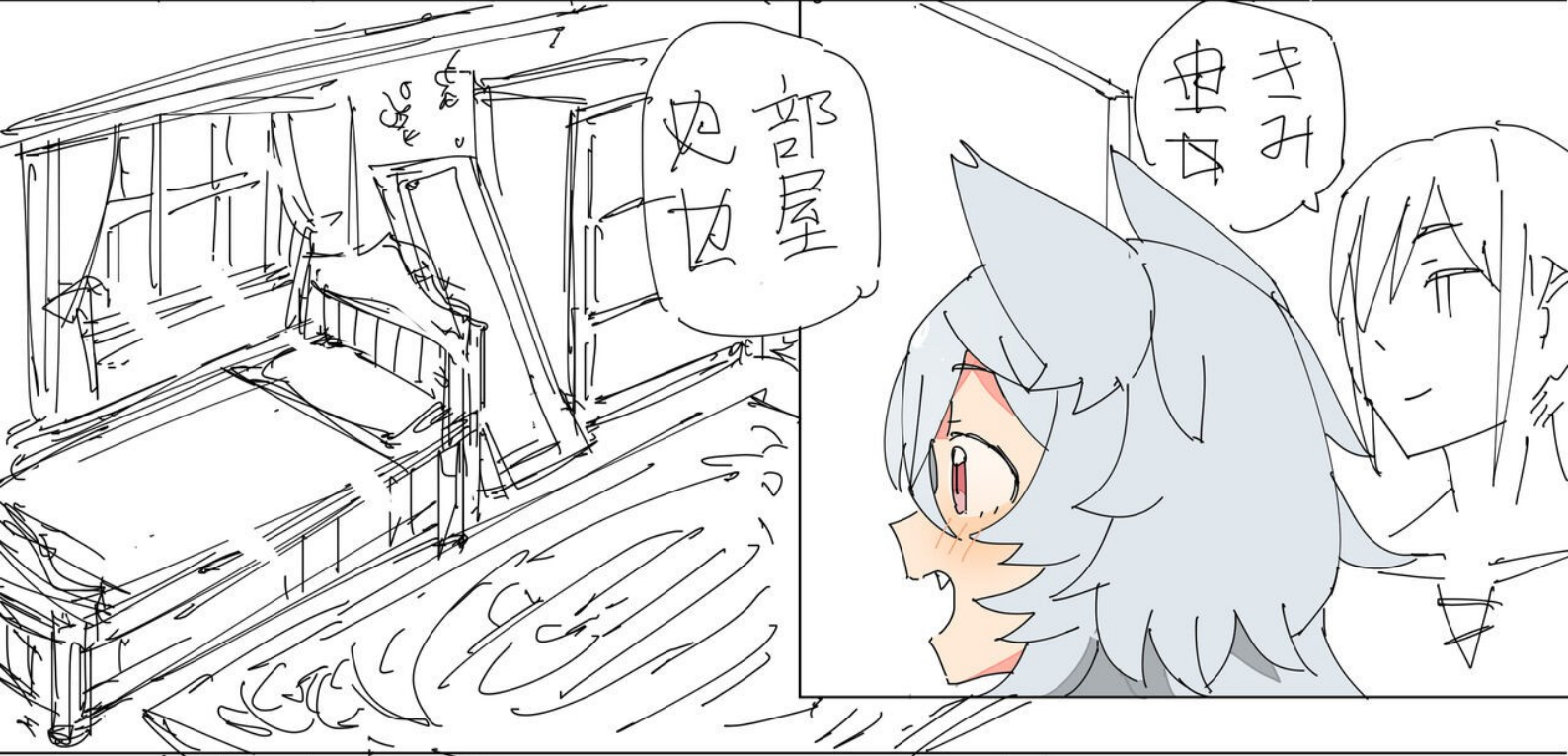


あと「あ、  
狼人族の本を  
貸してやるよ



人間の服も目当  
に自ら奴隷になる  
魔族も居るとか





私

ア  
ナ

ア  
ナ



それから悶々と  
しゃがも

穏やかな日々が流れ、  
少しずつ懐かしくなってきた

ハロウ  
キョウ  
ステキ  
ハンバー



ある日



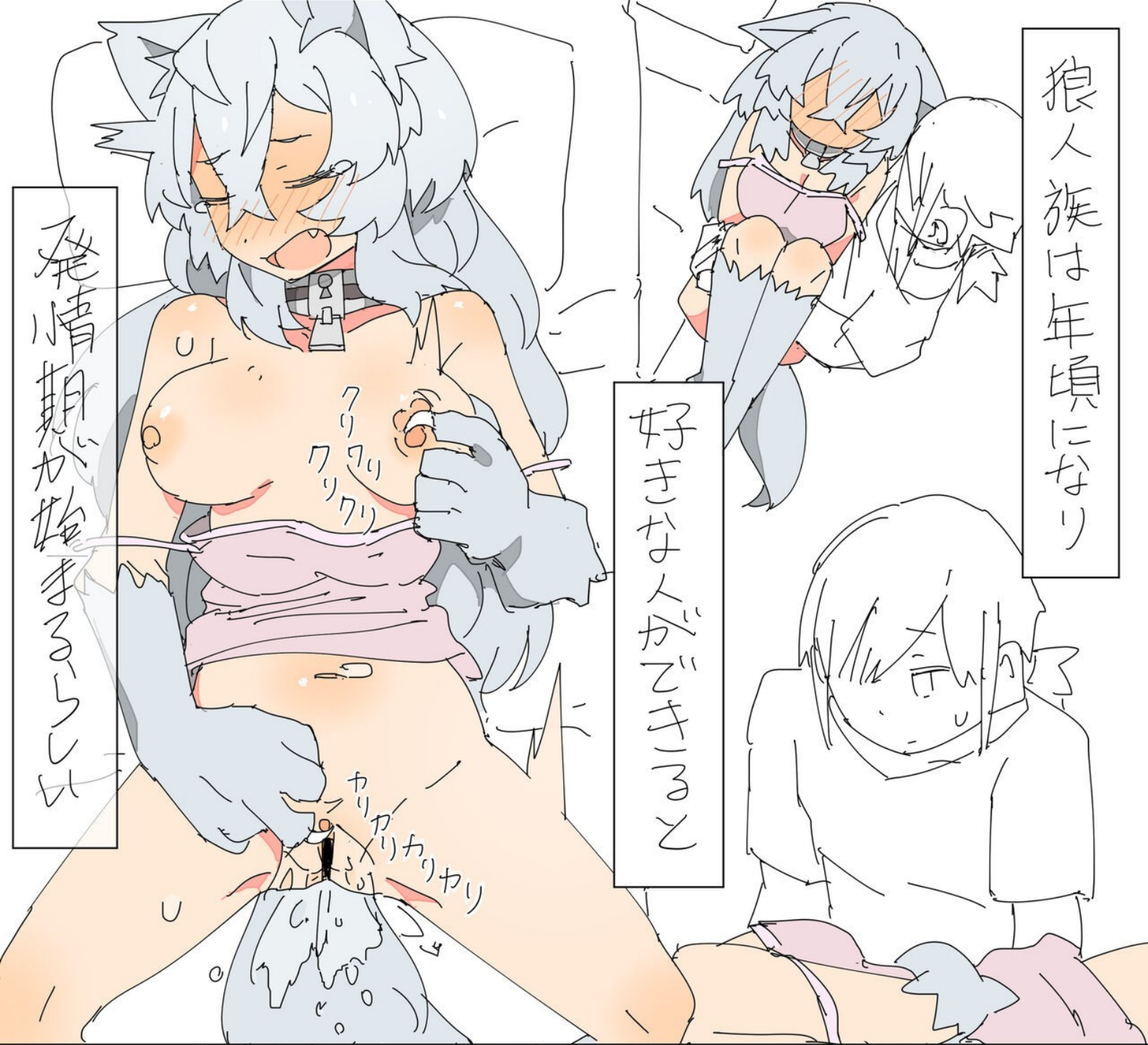




狼人族は年頃になり

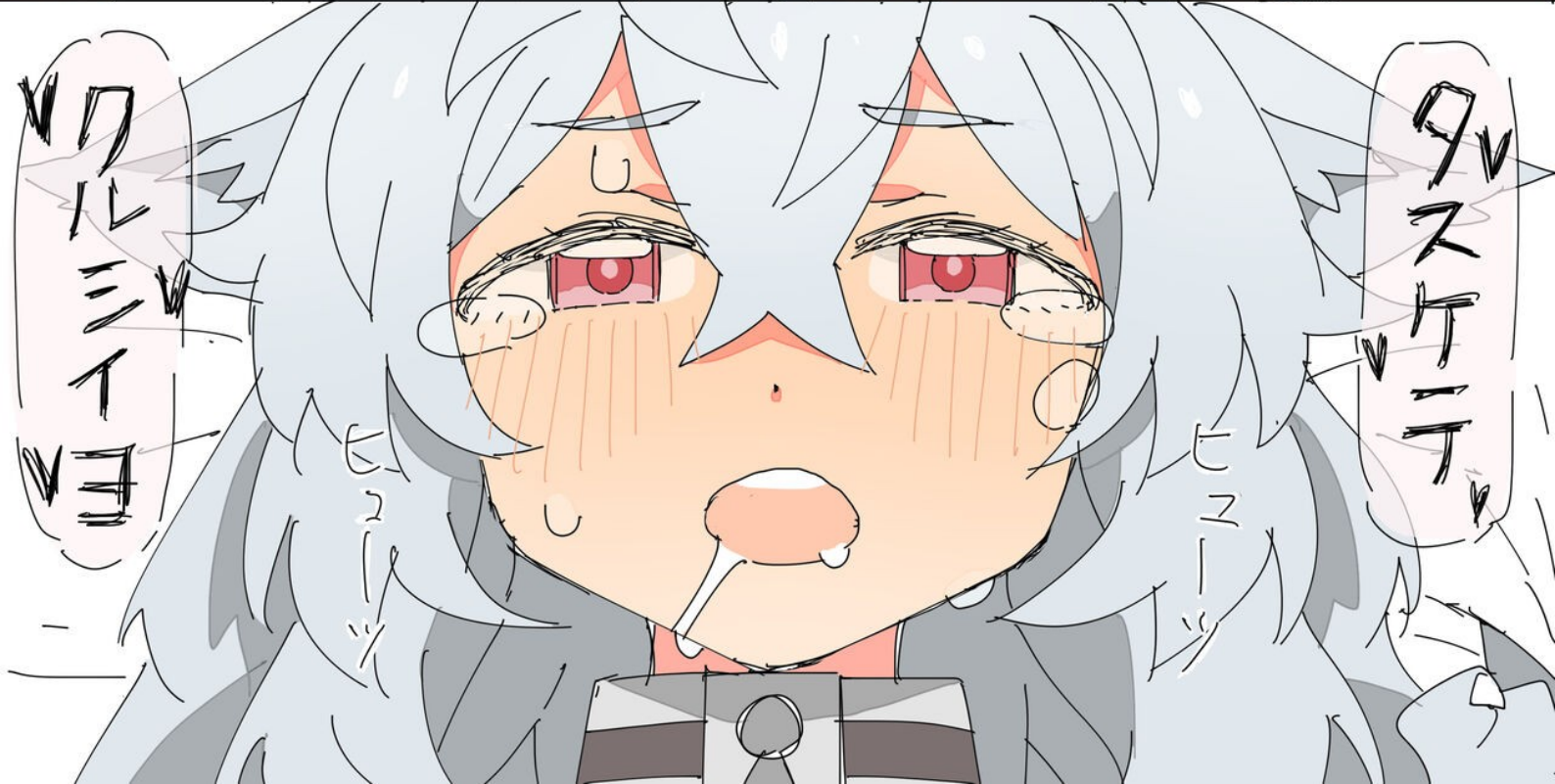
好きな人ができると

発情期が始まるらしい



ダズケイ

ワルミイ





痛くない?

しいしい  
とろろ

とろろ

HEA  
TI

くは

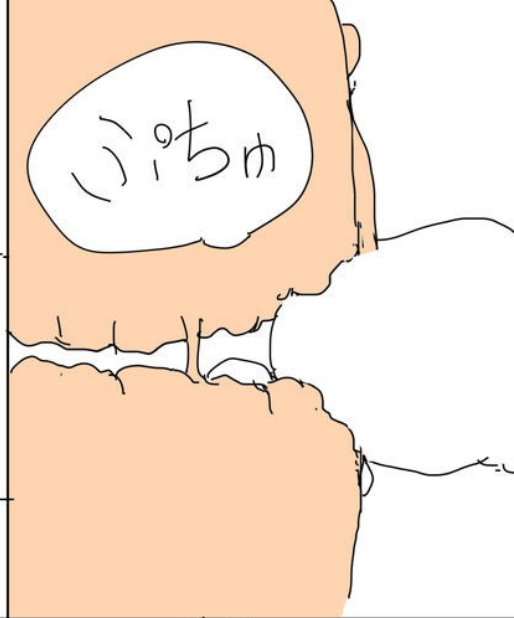
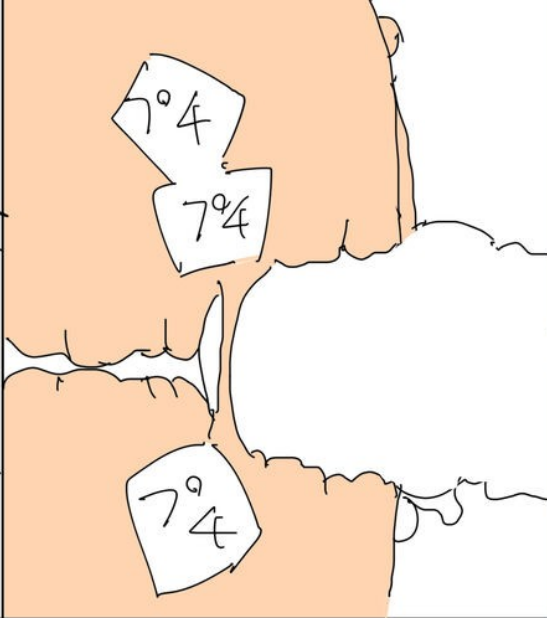
フーッ  
フーッ

ちゅま  
ちゅは

フィンフィン







気付くと無い我夢中で  
腰を打ち付けていた

ドキッ♡  
ドキッ♡  
ドキッ♡  
CHU♡  
CHU♡

ドキッ♡  
ドキッ♡  
ドキッ♡

チカ♡

キモカクッ♡

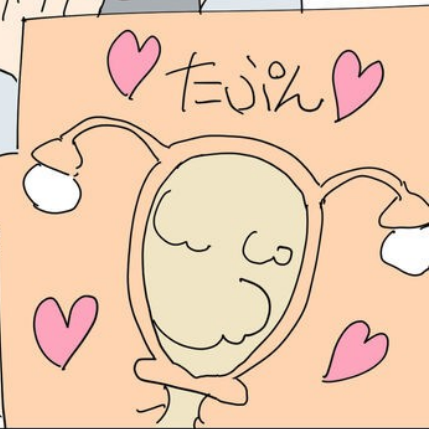
いん  
た

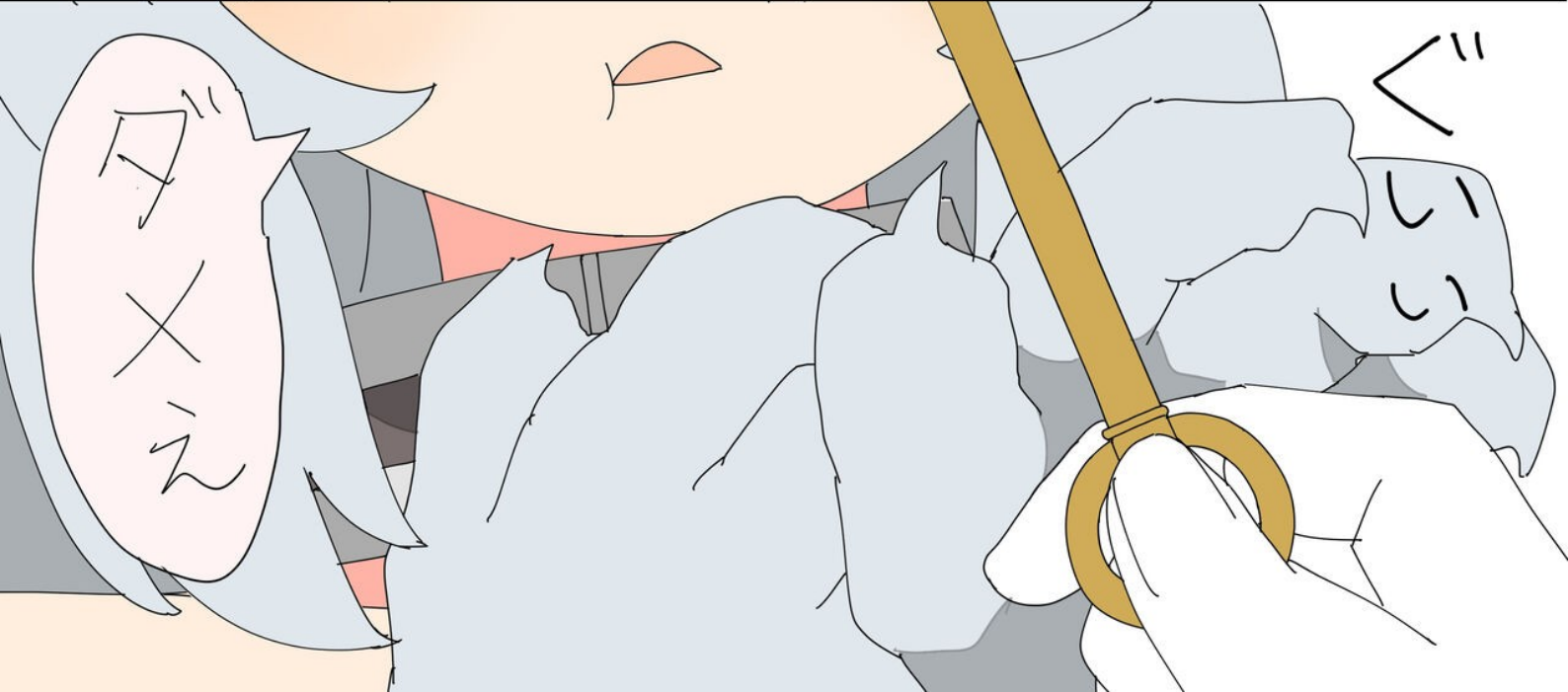
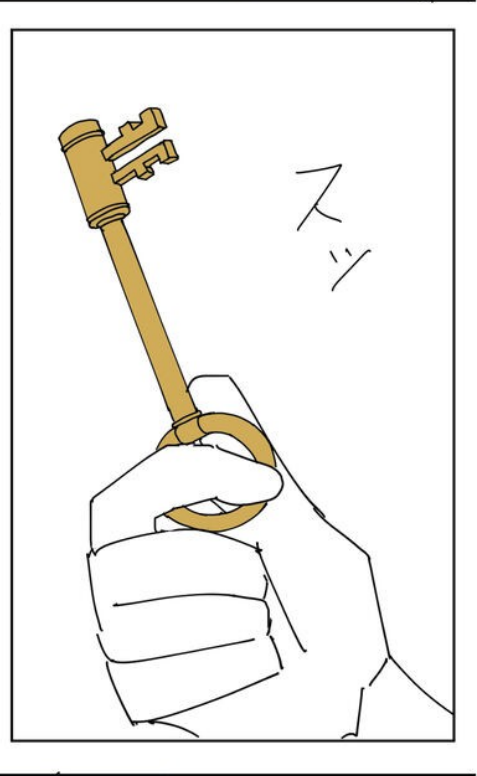
747

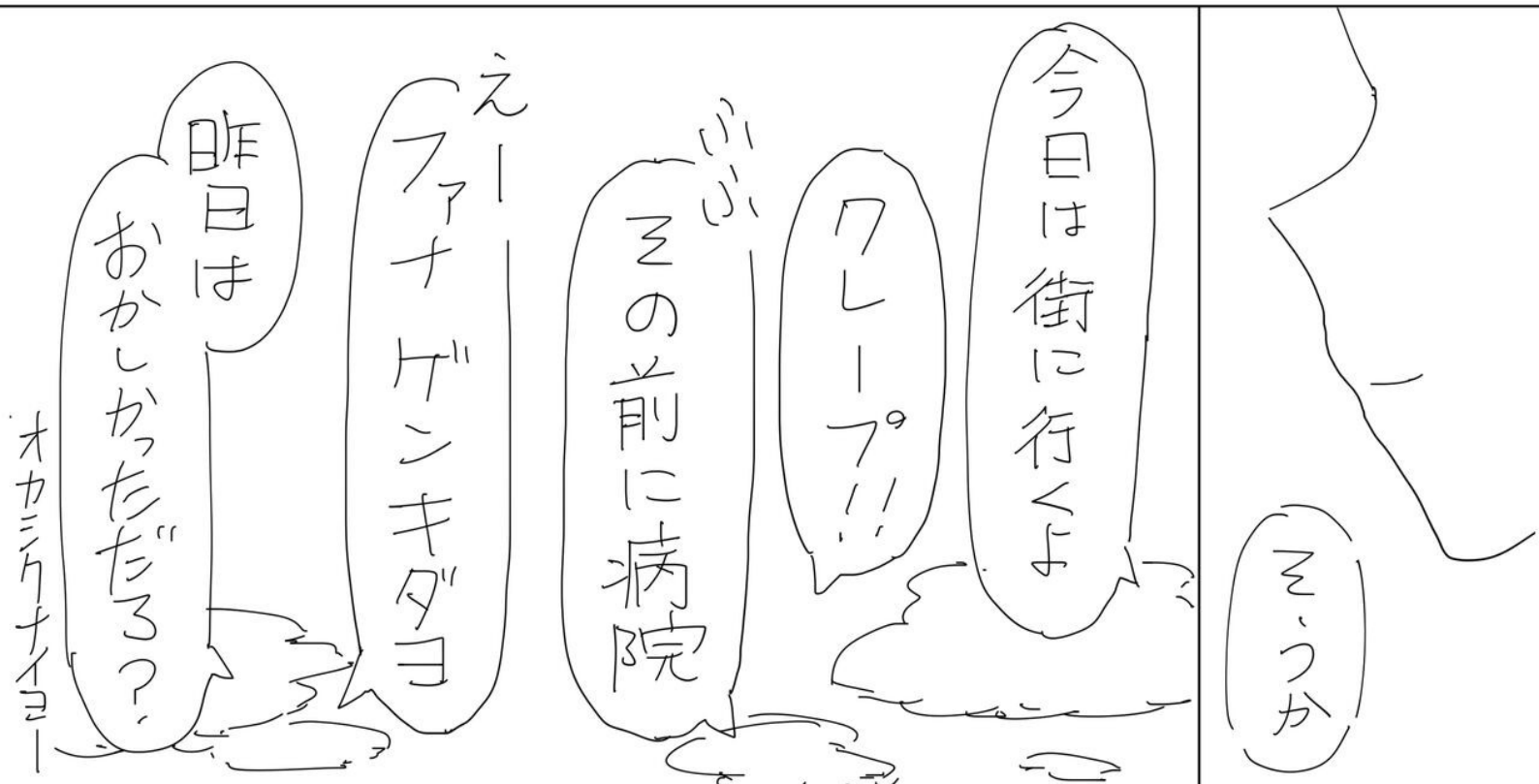




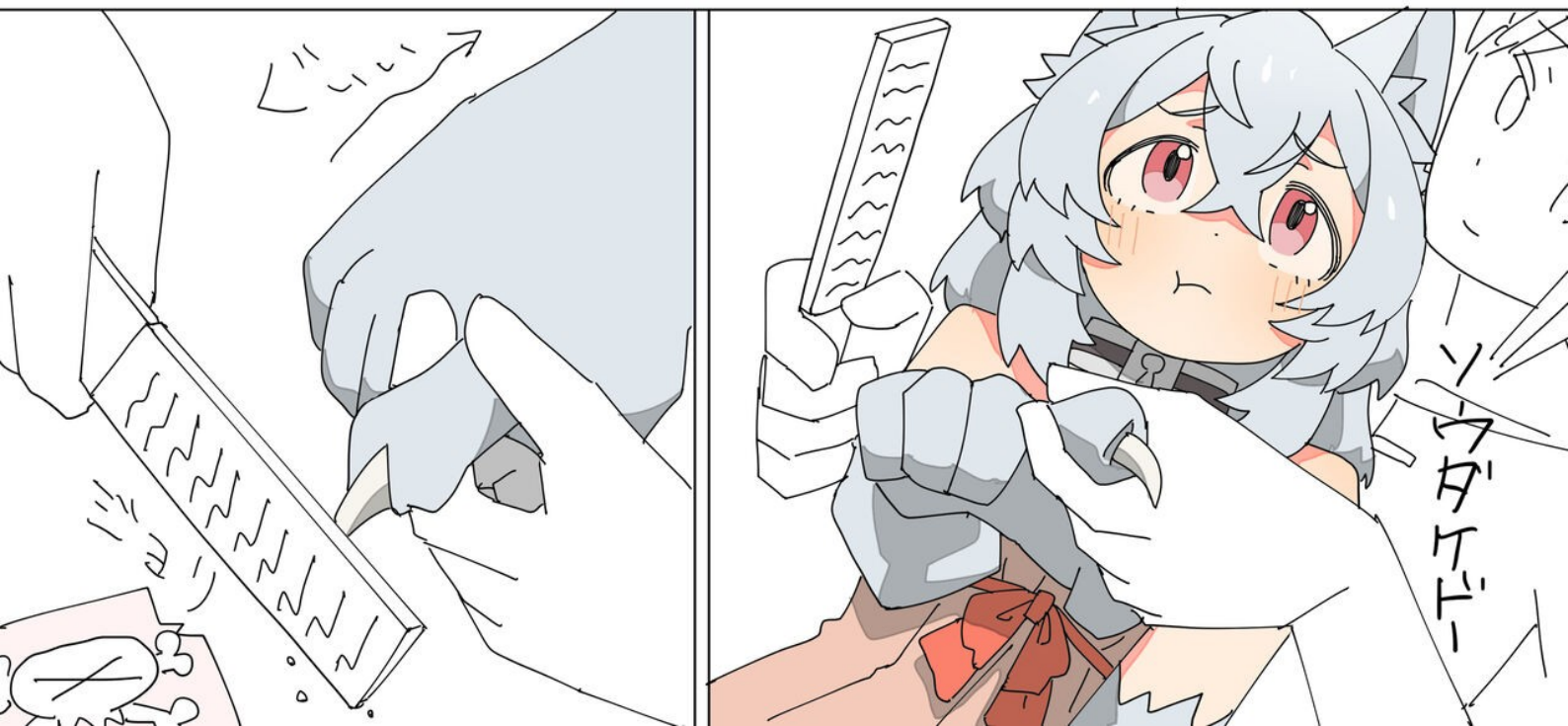


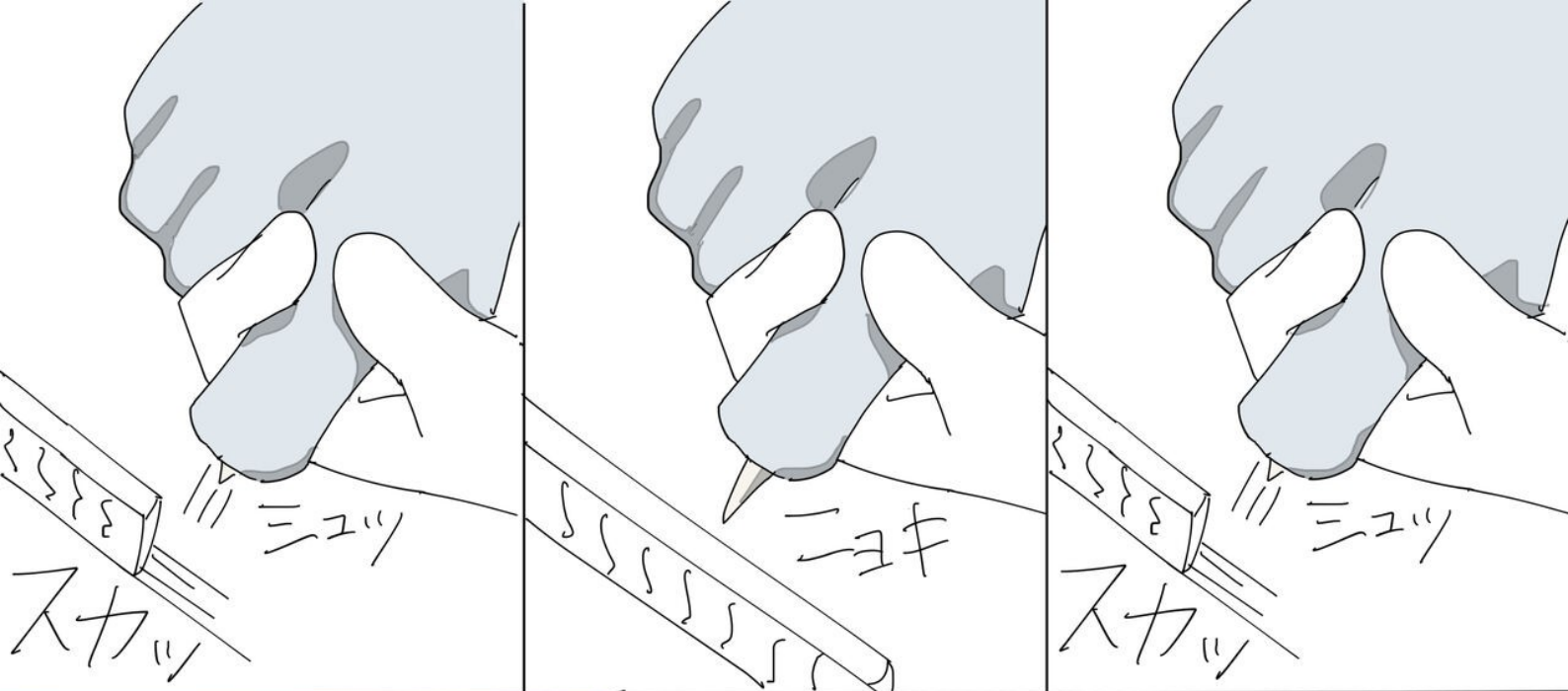


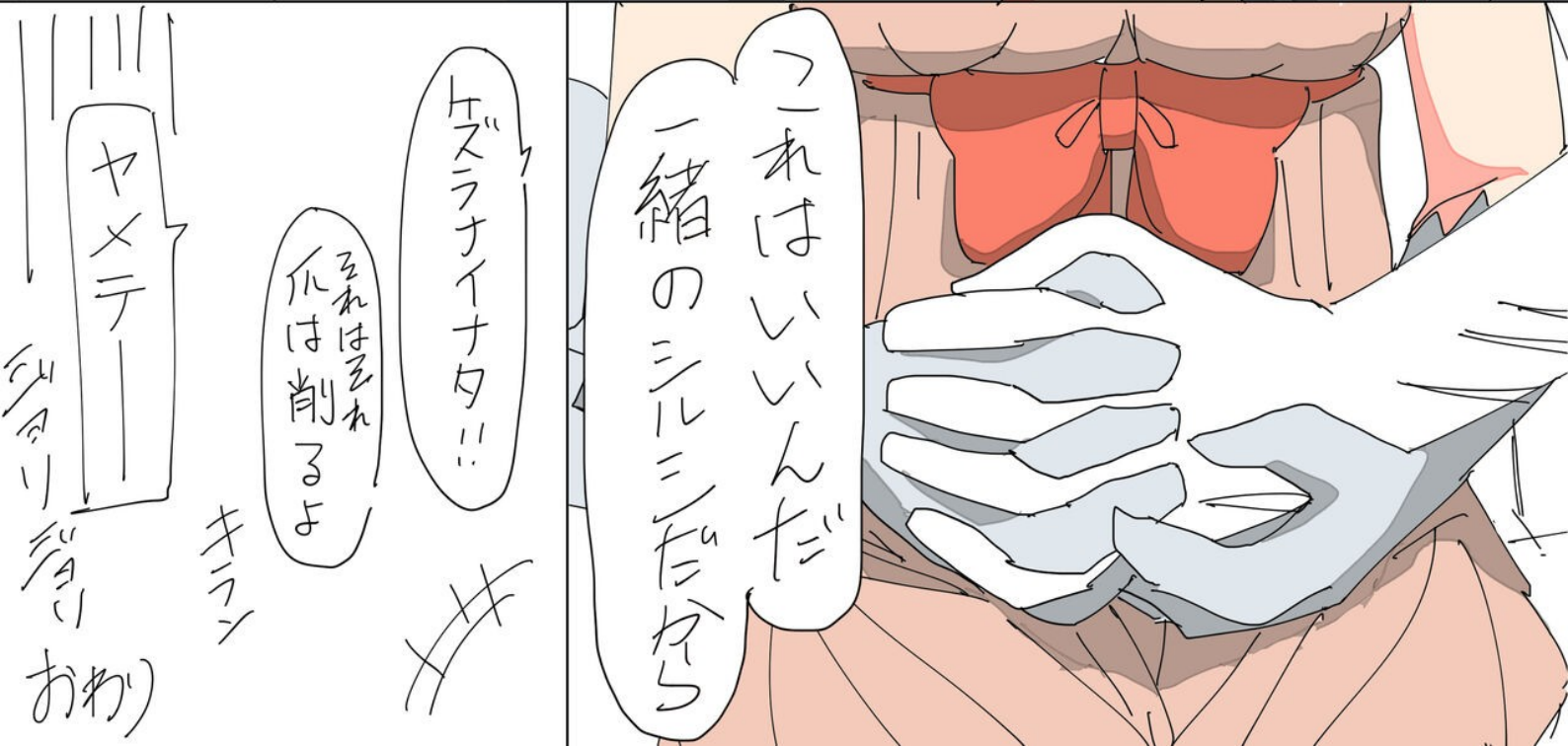


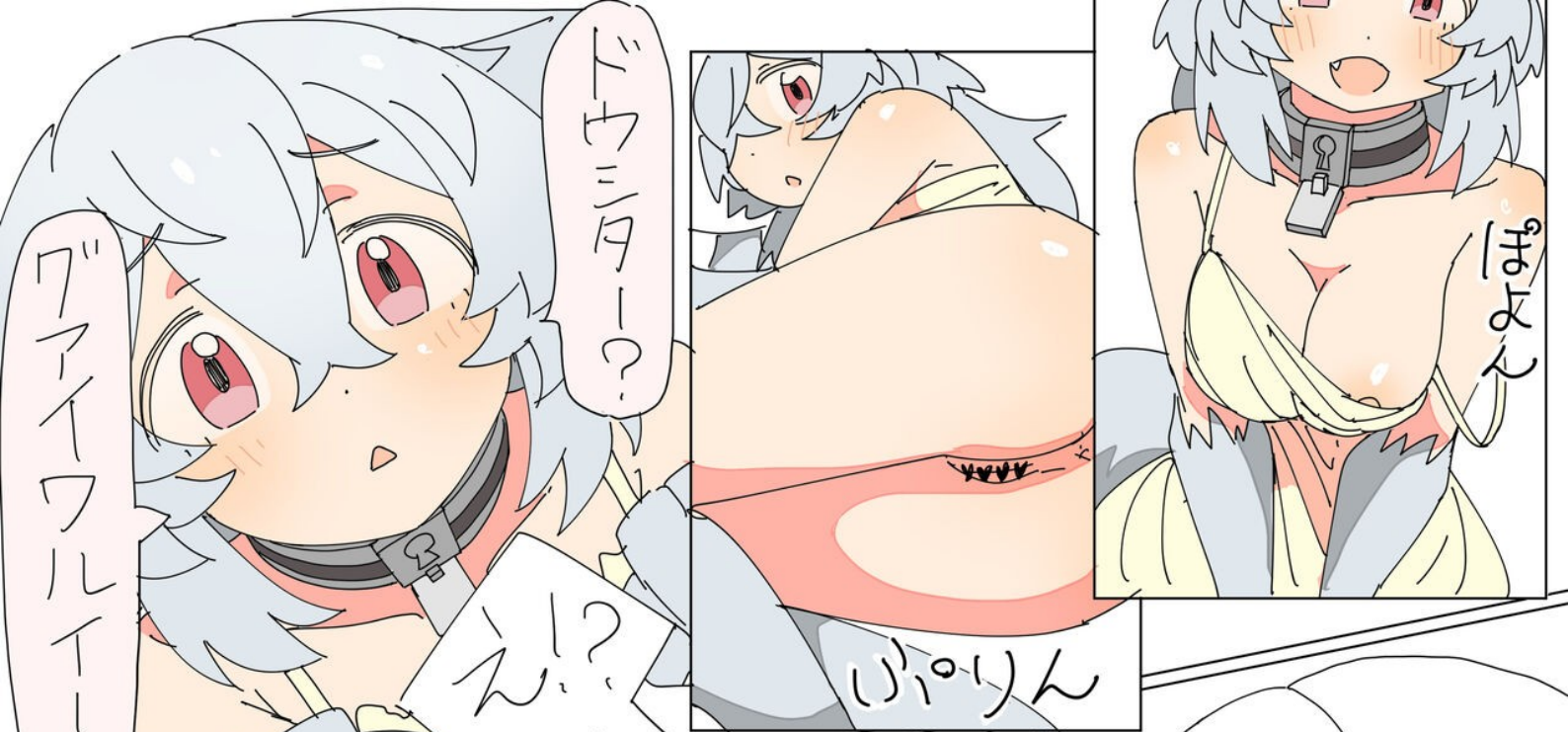


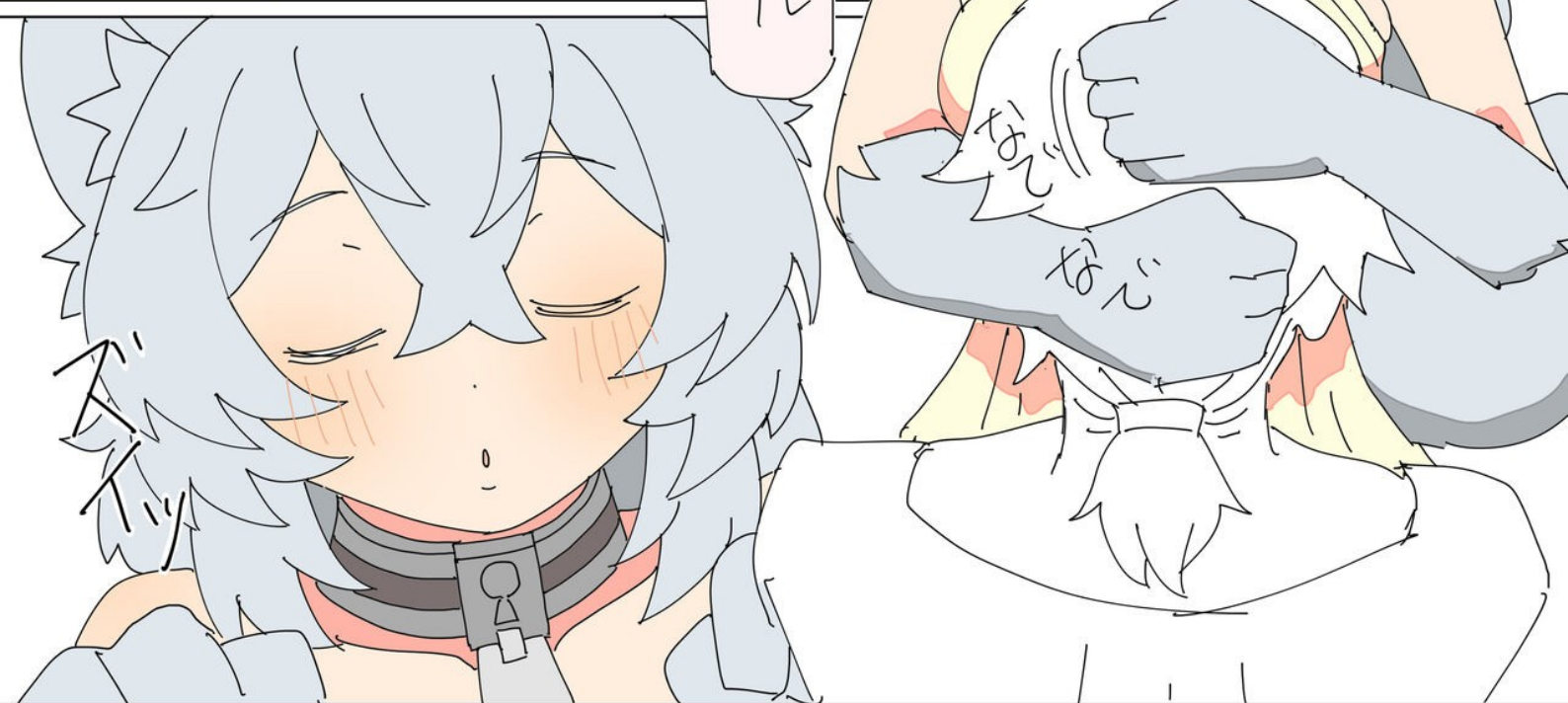
出会い編 完



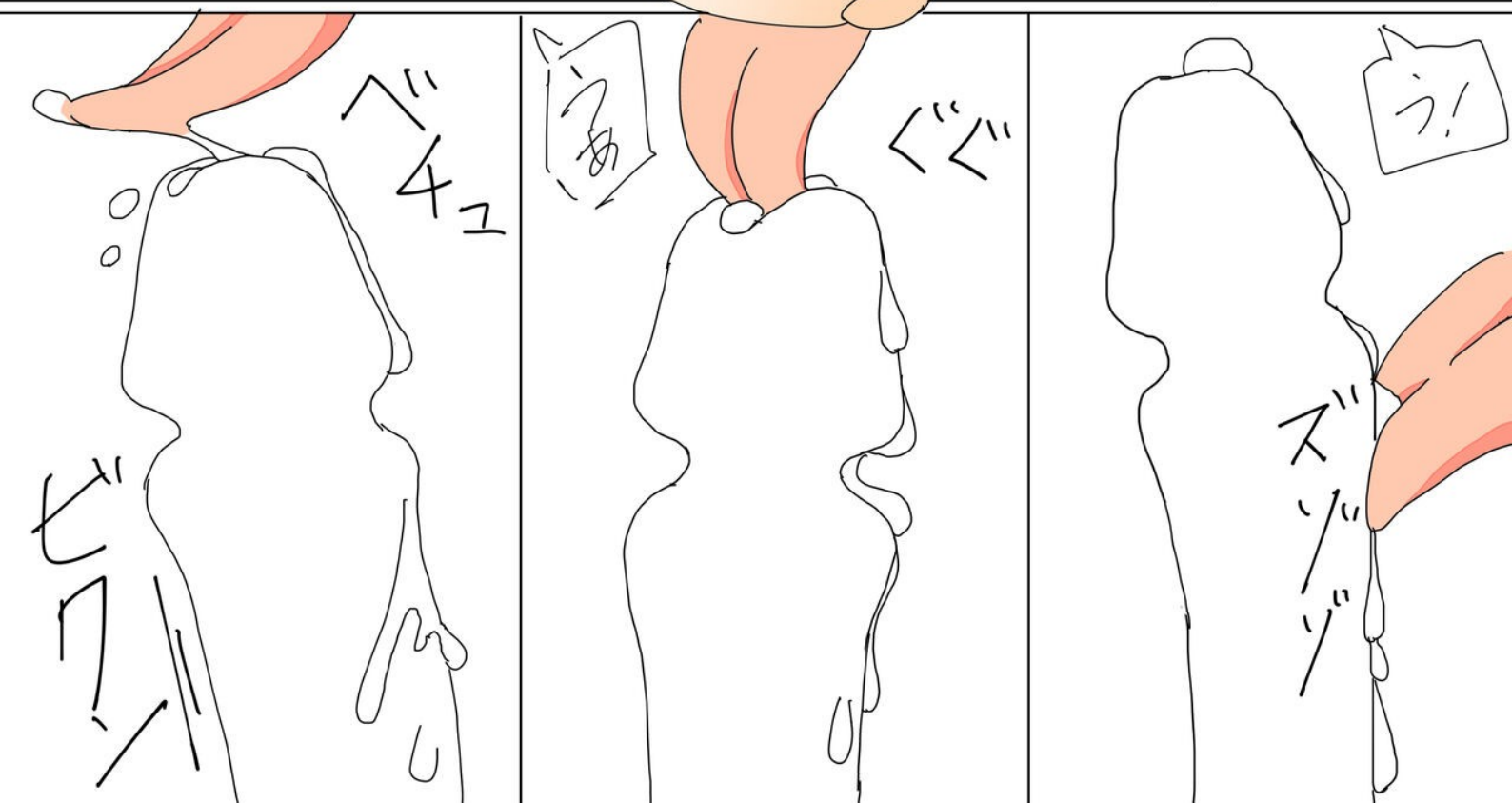






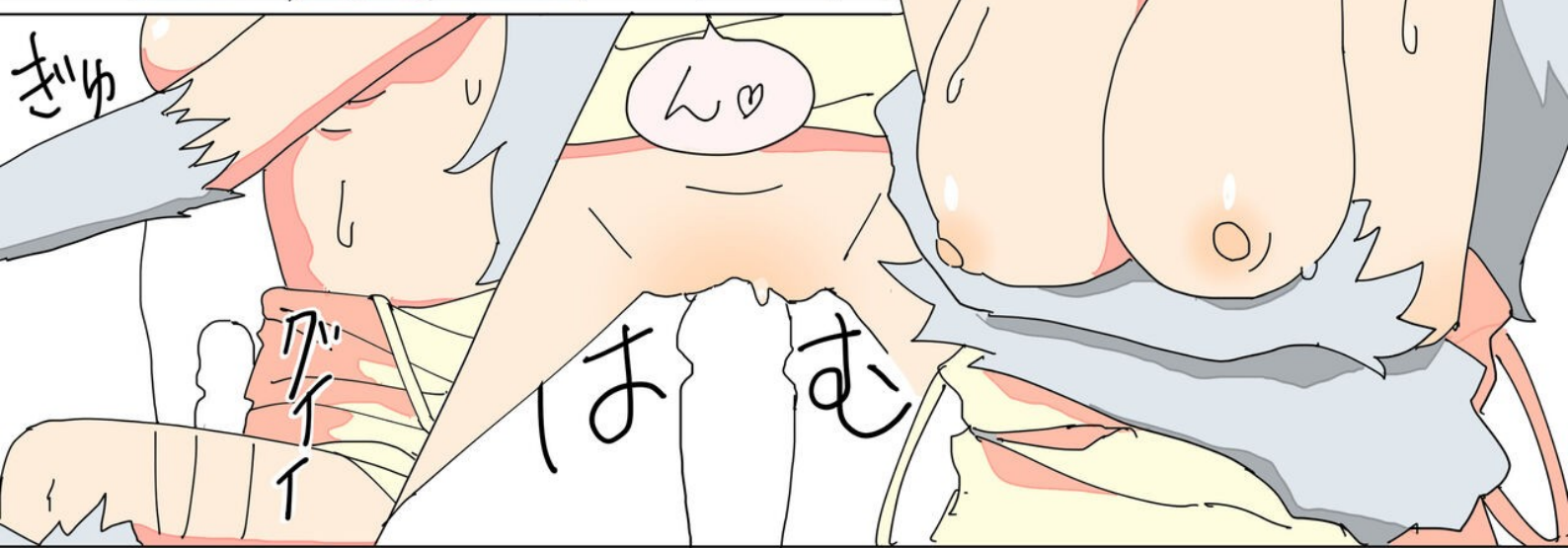


















たしゅん

たしゅん

たしゅん

たしゅん

たしゅん

たしゅん

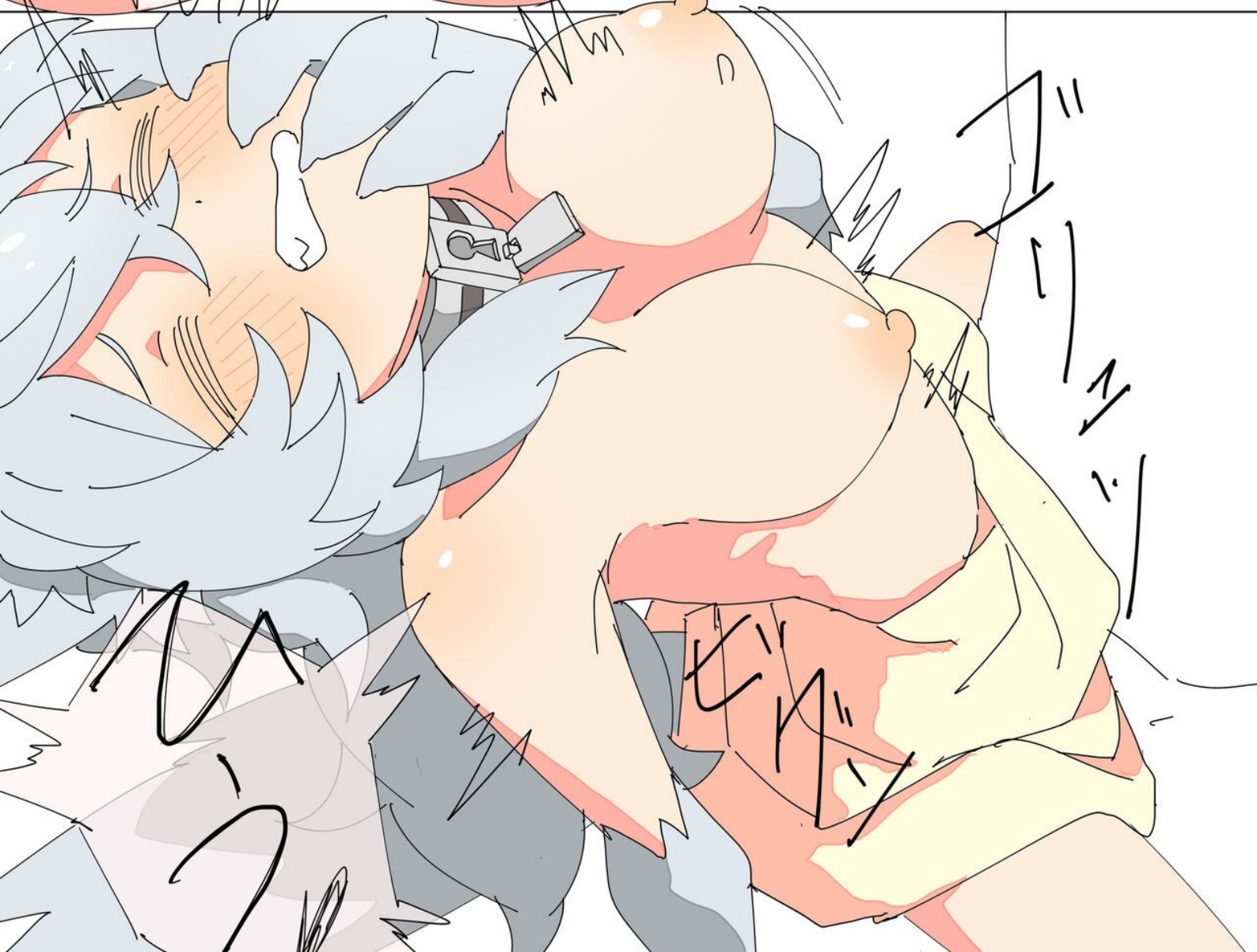
たしゅん

たしゅん

たしゅん

たしゅん

たしゅん





ヒィッ  
ヒィッ

7  
7  
7

!  
!  
!

@  
@

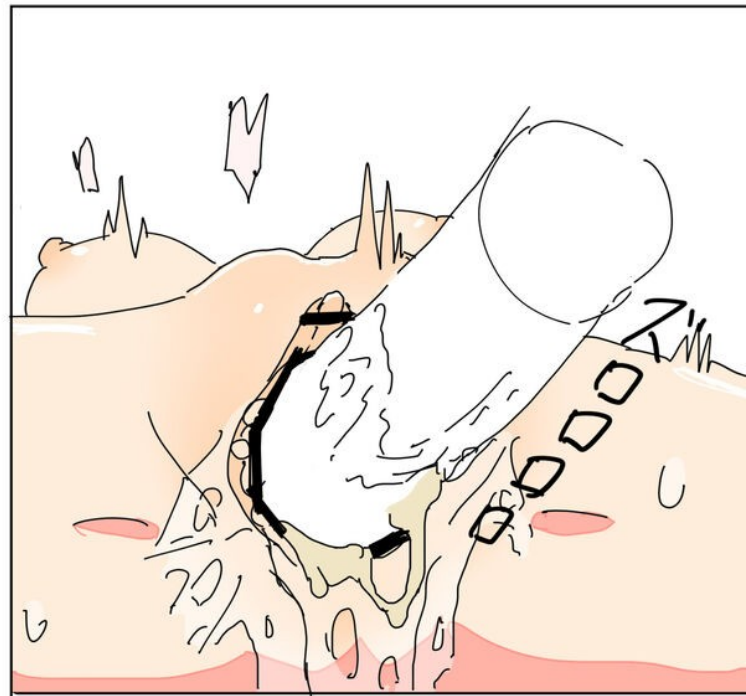
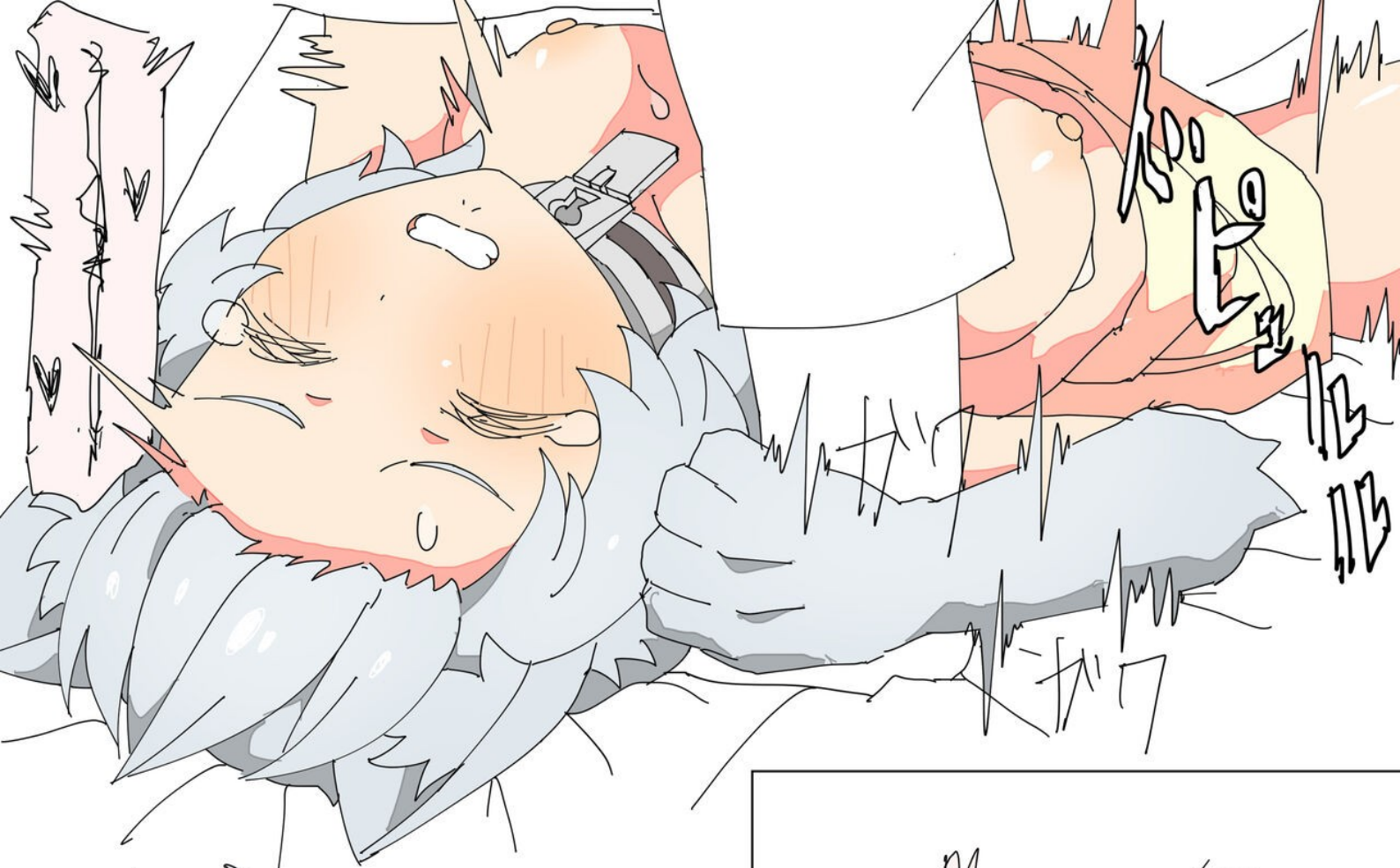
!  
!



ガッパッ

ギョウウ

うわう







大丈夫か?

キモイカター!

ハハハ

クウ

ク



魔族のタフネス恐るべし...

マタニヨネー!

フワフワ  
ビリビリ  
スゴカター!

フー